

創刊号

大地のめぐみ

キーワードは、「環境」「交流」「共存」です



甘いミカン早く食べたいね = 観光ミカン狩り園（桜井市）

編集・発行

奈良県中部農林振興事務所

平成18年10月23日

住所 〒635-0095

大和高田市大中98-4

高田総合庁舎内

TEL 0745-22-1701 内線326

FAX 0745-23-5160

私たちが健康で快適な環境のもと生活できるのは、農業・農村が育む有形、無形の“大地のめぐみ”があるからです。この“大地のめぐみ”を生み出す様々な取り組みを共有したいと考え、この情報紙を「大地のめぐみ」と名付けました。時代を先取りした農業者の活動や、人々の交流により慣習を乗り越え、新しいシステムづくりを実践する地域や集落の情報をお伝えします。

プロ農業者をサポートします



担い手の経営などをサポートするために、私たち普及指導員が個別訪問を始めます。10月から来年の2月までの期間を予定しています。

訪問により、皆さん一人一人と農業経営上の課題などを共有し、ともにその対応策を考えます。担い手が、優れた経営者としての能力を高めるとともに、意欲を持って自らの農業経営の発展を目指す取り組みを応援します。

認定農業者には、右のようなメリットがありますので、認定農業者になることをお勧めします。

認定農業者のメリット

制度資金を低利でご利用いただけます。
機械施設のリースに対する助成を受けられます。

農業者年金の基本保険料に対する助成制度があります（一定の条件をクリアした方）。
市町村を中心とした認定農業者へのフォローアップ活動を受けられます。

条件の良い農地を優先的に紹介します。

他に担い手経営安定対策などがあります

~~後継者不足~~~~高齢化~~~~産地が消える~~

担い手を育て、農業を守る

県内初！ 農業者が、新規参入者の育成に取り組みました

後継者不足や高齢化により 産地の維持が危ない！

担い手を確保して野菜産地を守ろうと、農業者自らが大和高田市担い手確保協議会(川本正彦会長)を設立し、新しい研修生の受け入れシステムをつくりました。農業者は1年間研修生を受け入れ、就農までをサポートします。この取り組みは、県内で初めてです。

大和高田市はシロナ・小松菜・ネギ・ホウレンソウ・キクナを市特産5品目に指定しており、合計約50ha栽培されています。しかしながら、60歳以上の生産者が7割を占め、将来の産地の維持には非常に厳しいものがあります。



研修生第1号の長西隆志さん(左)と上田喜章さん(右)

今年の6月に研修を終えた、研修生第1号の長西隆志さん(43)と受け入れ農家の上田喜章さん(48)にお話しをお聞きました。

- 大和高田市で就農しようと思ったきっかけは？

長西 就農しようと思っても受け入れてくれる地域やシステムがなかったり、年齢制限などがあり、就農までなかなかたどり着けませんでした。京都府の出身ですが、奈良県農業大学に通っているとき、大和高田市の担い手育成システムを紹介していただきました。

- 研修ではどのような勉強をされましたか？

長西 コマツナを中心に栽培技術や流通、経営の基礎、農村地域の習慣などを学びました。また、中核的な生産者とのつながりをつくっていただきました。

- 研修生を受け入れられた感想はいかがですか？

上田 農村の中で後継者を育てる事も大切ですが、外から意識の高い担い手が入ってくることは、地域の活性化にもつながると考えています。研修生を将来どのように就農に結びつけていくか悩むところでした。

- 今後はどのような農業を目指しますか？

長西 営農計画をたて、当面は上田さんと共同で行っていきたく考えてます。消費者に喜んでいただける野菜を栽培し、将来は規模も拡大して、大和高田市の軟弱野菜産地を支える農業者になりたいです。



竹上さんご自慢のイチゴ高設栽培ハウスにて

今までに、ベンチアップの無仮植育苗、本圃には技術がなくても効果の高い炭酸ガス施用、灰色かびに効果が高くイチゴががっちり育つダイレクトファン、一番作業が楽になる高設栽培、しかも費用が安い奈良方式を取り入れた。

これが上手いって自分の面積も増え、仲間も増え続けていたいへんうれしい。長年培われている栽培技術をより深く追求していく農業も素晴らしいが、自分はあまり好きではない。それより新しい技術を取り入れる方が面白いしわくわくする。

農業も気持ちの持ち方次第で楽しくなると思うし、他の業種の仲間にも農業を自慢する。少しハタリでも。

現実には楽な職業ではないが、言葉に出せば自分へのプレッシャーになり何かが変わってくる。自分はそう思う。

農業は楽しいという思いをもってやって行きたい。「農業ってええなあ」と他人から羨ましがられる様にしたい。

農業ってええなあ

竹上一清さん(58) 明日香村

今、農業をしておもしろいと思える。特に儲かっているとも思えない。また、他人に誇れる経営や技術があるわけでもない。

でも、面白いと思えるのは、自分の今やっている農業に妙に自信が持っているからかも知れない。農業に対して少しだけ自分としての思いがある。

農業は時間を自由に使えるのだから、この気楽さを一番大事にしている。だから、「忙しい」とか、「きつい」とか言う言葉は嫌いだ。技術面でも時間と手間のかかる作業は少しにしたい。

手間がかかると言われるイチゴ作りだからこそ、手間が少なく効果の高い技術はどんどん取り入れる。



高設栽培なのでマルチ敷き作業も楽々です

プロフィール

昭和 23 年生まれ。農業講習所を卒業後就農し、イチゴ、トマト、ミカン、水稻栽培に取り組む。奈良県 4Hクラブ連絡協議会長、イチゴ・トマト出荷組合長等を歴任し、昭和 60 年から指導農業士に就任。現在、奈良県指導農業士会長。

このコーナーへの投稿をお待ちしています。

「地域とのかかわりの中で、自分としてはこれから何を目標そうと考えているのか」「農業・農村を外から眺めた時、将来に向けて今農業者は何をすべきか」など あなたの思いをエッセー風にお書きください。字数は600字程度、締め切りは11月15日です。ご希望の方は中部農林振興事務所農林普及課までお問い合わせください。

販売額前年比 155%

～あすか夢販売所～



「自信をもってお届けします」とPRする勝本店长

場 所 明日香村御園（近鉄飛鳥駅前）
営業日 年末年始を除く毎日
営業時間 9：00～17：00
年間来客数 約18万5千人（平成17年度）
出荷農家数 264戸

平成11年4月開店以来、売上げは順調に伸び続け、平成17年度の販売額は前年比155% 2億1500万円を突破しました。主な売れ筋商品は村内産では苺、ホウレンソウ、トマト、ミカン、ブドウ、米、切り花です。顧客の利便性を考えて、農産加工品や新しく開発した菓子なども揃えて、品揃えの充実に努めています。

普段は橿原市をはじめ周辺市町村の固定客が多いですが、春と秋のシーズン中は観光客も大勢訪れ、にぎわっています。

設立から今日までの歩み

設立当初はテント張りの小さな直売所でしたが、定期的に販売できる場所が出来たことで生産意欲が高まり、出荷者が徐々に増えて加工品の開発も進みました。平成17年3月には店舗を新築して売り場面積を従来の2倍以上に拡大し、ますます売上げを伸ばしています。

成功の秘訣

消費者が直売所に求めていることは、量販店にはない魅力、つまり、新鮮、安心、安価です。

夢販売所では出来るだけ農薬を減らす栽培に取り組むとともに出荷者全員から農薬使用記録の提出を義務づけて安全使用を確認しているほか、独自の残留農薬検査を行っています。

また、市価より低価格の設定を目指し、毎朝穫れたての農産物を陳列して、常に新鮮な商品が店頭に並んでいるようにしています。

さらなる発展を目指して

現在はさらに付加価値をつけるために会員のエコファーマー 資格取得を推進し、他の販売店との差別化を図っています。夢販売所は消費者の夢と生産者の夢の架け橋です。

エコファーマーとは、土作り、化学肥料・化学農薬の使用量を削減することに取り組んでいる生産者を認定する制度です。



編集後記

情報紙「大地のめぐみ」は、市町村や農業委員会、JA、農業共済組合が構成する葛城・中和農業推進協議会の協賛により発行します。

普及指導員が毎月、担い手農家への訪問時にお届けします。